

大学院ニュースレター

久留米大学大学院医学研究科

第 56 号 / 2010 年 9 月 10 日発行

編集 / 医学研究科長

特集

第21回医学教育ワークショップ開催！！

「大学院教育の更なる充実を目指して～原点を見つめ直し、新たな展開を見出そう」をテーマに活発な討論！

第 21 回医学教育ワークショップは佐賀県唐津市の唐津ロイヤルホテルを会場に、平成 22 年 8 月 5 日 (木) ～7 日 (土) にかけて実施された。今回のワークショップには全体で延べ 90 名の方が参加された。このうち大学院部会には教員 16 名、大学院学生 2 名、事務 2 名のほか、今回初めて大学病院看護部から 3 名 (うち 1 名は本学大学院医学研究科修士課程修了者) の方々が参加された。多様な職種、立場の方々のご参加により、日頃の大学院に関する問題点について貴重なご意見、提言を頂いたことに感謝申し上げます。また、今回も共催をご快諾頂いた八木実行委員長はじめ医学部執行部に改めて御礼申し上げます。

さて、今回の医学教育ワークショップで大学院教育に関する討議は 3 回目になる。大学院教育も先の中教審答申「新時代の大学院教育」(H17)、これに基づいた文部科学省「大学院教育振興施策要綱 (以下、要綱と略)」(H18) が示されたこと、そして大学院設置基準改正 (H19) により「大学院課程教育の実質化」「FD 活動の義務化」などが明確になった。久留米大学大学院医学研究科 (以下、本研究科と略) でもこのような WS の開催のほか、この 5 年間に様々な教育・制度改革に取り組んだ。今回のワークショップではこの「要綱」及び文部科学省の諸政策の達成目標年度が平成 22 年度である

ことを踏まえ、これまでの本研究科の大学院教育改革が文部科学省の施策に合致したのかどうかを検証し、個々の改革策の問題点とその解決策を検討するとともに、今後新たな教育展開を見出していく機会として位置づけ、3 日間にわたる活発な討論を行った。

討議の結果であるが、これまでも議論していた学位に関する諸問題について、一定の改革案を示すことができた。また、高度専門職業人養成に関しては、特に修士課程について、これまでの取り組み (専門看護師養成) を踏まえ、新たな取り組み (特定看護師≪仮称≫養成) についての提言を頂いた。さらに、これまでの本研究科における大学院改革を検証し、評価をおこなった上で、今後の改革ポイントについて議論するとともに、魅力ある大学院構築に向けて必要な取り組みを提言した。

今回の部会討議では大学病院看護部からの出席もあり、臨床の立場、教育の立場双方の意見を交換することができ、今後の協調的・戦略的な連携に弾みをつけることとなった。また、2 日目の最終発表準備には多くの部会参加者が深夜まで取りまとめに奔走していただいた。詳細な討論の経過、及び最終的な提言については、別途纏められるが、以下に部会提議の主たる概要を示す。



(1) 学位をめぐる諸問題

- ① 博士課程における学位論文提出については最終的な結論は出なかったが、今後一定の緩和策を念頭に検討していく。修士課程については、スペシャリストコースで学位論文提出に関する緩和策を提言する。
- ② 学位論文未提出を理由とする在学期間延長者に対する経済的支援策創設を提言する。

(2) 高度専門職業人養成に関する諸問題**【修士課程】**

- ① 特定看護師等高度な専門職業人の養成について準備を開始することを提言する。
- ② (コメディカル) 教育と臨床現場の連携を緊密なものになるよう配慮する。

**【博士課程】**

- ① 進学希望者の確保を促進する。
- ② 国の重点経費補助に係るコースワークは継続し、その期限切れ以降についても新たな補助金確保を模索する。
- ③ e-ラーニングなどの新教育手法導入に関する環境整備を提言する。

(3) 大学院教育の実質化に向けた取り組みの問題点

- ① オフィスアワーやリカレント教育の明確化を今後のカリキュラムにおいて実施する。
- ② ジョイントディグリーやインターンシップ教育の明確化について検討する。

(4) 大学院教育研究支援体制の整備

- ① カリキュラム改革を継続し、学生・教員双方のニーズに合った環境を整備する。
- ② 「高度医学情報教育センター (仮称)」構想を再検討し、将来構想の中で提言できるよう取り組む。
- ③ 魅力ある大学院をアピールするために、「大学院版オープンキャンパス」の実施や広く進学希望者を募るための入試説明会の実施を検討する。また、学生に対して「研究成果に関する中間発表会」の実施を検討することを提言する。



今回の提言を踏まえ、今後継続した取り組みを！

これらの提言は基本的には今後大学院医学研究科委員会に付議され、検討していくことになるが、法人はじめ様々な方々のコンセンサスを得ていきながら進めていくものもある。幸い、本学の中・長期的構想をまとめる基本構想策定会議が設置され、医学教育に関する部門として「旭町地区教学事項検討委員会」が設けられ、さらには医学研究科に関する問題を扱うWGも開設されようとしているので、一部はこちらで検討することになる。いずれにしても、これらの提言を「絵にかいた餅」にしないためにも、継続した討議が必要である。

今後益々の大学院発展を期するために、こうした提言に対する読者各位の忌憚ない意見をいただければ幸甚である。

大学院医学研究科における自己点検評価アンケート結果について

大学院医学研究科学生及び科目担当責任者(教員)を対象に、「平成21年度大学院医学研究科における自己点検評価アンケート」を実施しましたが、このほど調査結果がまとまりましたのでご報告します。

この結果は先に開催された第21回医学教育ワークショップ(平成22年8月5日～8月7日)において報告され、実際に学んでいる大学院学生や教育研究指導に従事している教員が現状の大学院教育をどのように感じているのかについて把握するための資料として活用しました。学内外の皆様においても今後の大学院教育に役立てていただければ幸いです。

以下、調査の概要と分析結果を紹介します。

【調査実施の概要】

(1) 「教員に対する大学院教育・研究に関する意識調査」の実施

- a. 対象者：大学院医学研究科に所属する有給講師・准教授・教授で、平成21年度に履修登録がなされた科目の担当責任者
- b. 実施時期：平成22年5月
- c. 実施方法：氏名記名方式。講座等を通じて配布。



対象者	：	81名
有効回答者	：	58名
無回答	：	23名
回答率	：	72%

(2) 「学生による大学院教育・研究に関する意識調査」の実施

- a. 対象者：平成22年3月現在大学院医学研究科に所属する学生
- b. 実施時期：平成22年5月
- c. 実施方法：氏名記名（一部無記名）方式。講座等を通じて配布。
なお、「講義実習に関する意識調査」については、学生が履修した科目ごとに実施する。

対象者	：	修士課程：36名（全学生41名中休学等除く） 博士課程：59名 （全学生130名中休学・満期退学・未履修者等除く）
有効回答者	：	修士課程：21名、博士課程：27名
無回答	：	修士課程：15名、博士課程：32名
回答率	：	修士課程：58%、博士課程：45%

【調査結果の分析】

1. 教員に対する大学院教育・研究に関する意識調査結果

- (1) 国内外において発表実績あり
→業務多忙で研究ままならないことも・・・
- (2) 研究費は科研費が主流
- (3) 教員の自己分析
→シラバスなどの情報提供が不十分と感じている。
- (4) 教員の大学院教育に対するコメント
→科目担当者間の連携の希薄さ指摘する意見あり。
限りある時間のなかで、いかに教育・研究・診療を行うか。



2. 学生による大学院教育・研究に関する意識調査（修士課程）結果

- (1) 学生の学会・論文発表は低率
- (2) 学修態度自己分析は高いが、研究に関しては停滞気味
- (3) 学群別科目別の5段階評価は高い評価
- (4) 修士課程学生による大学院教育へのコメント
→概ね高い評価。

中には・・・バックグラウンドが様々であるため、内容によっては難易度の高い科目となっているものがある。



3. 学生による大学院教育・研究に関する意識調査（博士課程）結果

- (1) 学生の学会・論文発表は低率
- (2) 研究費を獲得している学生はほとんど無い。
→補助金性格の変化による減少（重点補助削減）
- (3) 学修態度・研究進捗ともに停滞傾向
- (4) 専攻別科目別の5段階評価はおおむね高い評価
- (5) 博士課程学生による大学院教育へのコメント
→概ね高い評価。中には・・・講義開催の要望がある。

**調査を終えて・・・**

分析の結果現在の教育に対する満足度は概ね高いものであった。しかしながら、中には改善を求める意見もふくまれており、今後の更なる教育充実にむけ真摯に取り組んでいきたいと考える。

※詳細な本調査結果は大学院医学研究科ホームページでも公開しています。ご覧下さい。



◆修士・博士課程の皆様へ◆

平成22年度 大学院セミナーシリーズ特別講義 後期日程のお知らせ

担当講座	講義日時	会 場	講 演 者	講義テーマ
内科学 (消化器内科部門)	9月16日(木) 17:00~18:30	教育1号館5階 1501教室	浅原 孝之 教授 (東海大学医学部基盤診療学系再生医療科学)	幹細胞生物学の血管医学への応用
病理学	10月7日(木) 18:00~19:30	教育1号館5階 1501教室	宮園 浩平 教授 (東京大学大学院医学系研究科病因・病理学専攻病理学講座分子病理学)	TGF-βと癌(仮題)
内科学 (血液・腫瘍内科部門)	10月14日(木) 17:00~18:30	臨床研究棟2階 カンファランスルーム	嘉村 巧 教授 (名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻情報機構学講座分子修飾制御学)	細胞内タンパク質分解の分子機構
外科学 (小児外科部門)	10月21日(木) 18:00~19:30	教育1号館5階 1501教室	牛木 辰男 教授 (新潟大学大学院医歯学総合研究科顕微解剖学分野)	ステレオ走査電子顕微鏡による消化器系の構造解析
先端癌治療研究センター (肝癌部門)	12月13日(月) 18:00~19:30	臨床研究棟2階 カンファランスルーム	吉治 仁志 講師 (奈良県立医科大学消化器内分泌代謝内科)	肝癌と血管新生

日時・場所等に変更がある場合には、大学院医学研究科ホームページでお知らせします。また、今年度より5回以上のセミナー出席およびレポート提出により単位認定を行っております。当該科目履修登録者は各セミナー出席の上、1週間以内に医学部事務部教務課までレポートをご提出下さい。

◆博士課程の皆様へ◆

平成22年度博士課程共通科目後期講義計画 及びレポート提出について



共通科目を履修された方には既に通知しておりますが、今一度講義計画及びレポートの提出期限についてご確認の上、所定の期日までにご提出ください。なお、講義の変更等ある場合には、大学院ホームページ学生掲示板にてお知らせしますので、そちらもご覧いただくよう併せてお願い致します。

●講義計画（後期日程）＆レポート提出

実施時期	科目名	科目担当責任者	所属	第1回講義	場所	備考
後期	臨床研究主任 研究者養成ユニット	山田 亮 教授	先端癌治療 研究センター	9月15日(水) 6時限	教育1号館 1501教室	9月15・29日、10月6・ 13・20・27日 11月10・17・24日、 12月1・8日講義実施。 レポート:第1回講義時 に指示
後期	臨床・基礎研 究と生命倫理 (コンサルテ ーション)	嘉村敏治 教授	産婦人科学	10月14日(木) 6時限	教育1号館 1501教室	10月14・28日、 11月4・11日講義実施。 レポート:嘉村教授: 12/1(水) 締切 産婦人 科教授室提出/芳野教 授:12/28(火) 小児科 医局へ提出/福重教授: 12/24(金) 緩和ケアセ ンターへ提出
後期	科学的根拠に 基づく医療 (EBM)	上野隆登 教授	先端癌治療研 究センター	10月15日(金) 6時限	教育1号館 1501教室	1回目講義のみ レポート:「EBMの功罪 について」2/4(木) 締切 教務課窓口へ提出
秋期 集中	研究者養成リ テラシー	野口正人 教授	医化学講座	11月1日(月) 15:00~	教育1号館 1414教室	11月1・2・4・5・11・ 18日講義実施。 11・18日は15:00~2 コマ分ずつ実施。 レポート:最終日に指示 指示 11/30(火) 締切 教務課窓口へ提出
後期	プロテオーム /ペプチド解 析	野口正人 教授	医化学	12月14日(火) 6時限	教育1号館 1501教室	12月14日、1月11・18・ 25・31日講義実施。 レポート:2/15(月) 締 切 責任者へ提出

平成23年度入学試験 要項決定！！

平成23年度大学院医学研究科入学試験の要項が、下記の通り決定しましたのでお知らせ致します。

【試験日程】

修士・博士ともに同一



*前期試験

出願受付期間：平成22年9月21日（火）～平成22年10月1日（金）

試験期日：平成22年10月19日（火）

合格発表：平成22年11月12日（金）午前10時

*後期試験

出願受付期間：平成23年1月17日（月）～平成23年1月28日（金）

試験期日：平成23年2月15日（火）

合格発表：平成23年3月11日（金）午前10時

※他に出願資格審査申請受付期間を設定しているのでご注意ください。

【試験内容】

*修士課程

《基礎医学群・社会医学群・分子生命科学群・臨床看護学群》

英語・小論文・面接

《バイオ統計学群》

英語・面接

*博士課程

英語・面接

出願資格審査、出願方法等詳細につきましては、平成23年度各課程募集要項もしくは本学大学院医学研究科ホームページにてご確認ください。

科目等履修生も同時募集中です。そちらも詳細は募集要項、ホームページをご覧ください。

編集後記

今月からいよいよ、平成23年度学生募集が本格的にスタートします。また今年7月末、*修士課程臨床看護学群臨床基礎看護論「感染看護専門看護師教育課程」*を、CNS専門教育課程として認可されるよう、日本看護系大学協議会へ申請致しました。認可が下れば、本学大学院は感染看護専門看護師養成拠点として、来年度また大きな一歩を踏み出すこととなります。これら本学大学院教育をより多くの方々に周知・ご理解いただき、多くの入学希望者に恵まれるよう、努めて参りたいと思います。（菅）

